

り、さらにコロナ、DXと外部環境変化は予測不可能になりつつある。さらに技術は指数関数的進化を続けており、この数年間技術進化による良い面ばかりがハイライトされてきた。一方で進化による課題が顕著になってきた。人類が今後どのように技術と折り合いをつけるかを問うと講演した。VUCAとは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語で、社会やビジネスにとって、未来の予測が難しくなる状況のことを示す。それに続いての、Future Castingで、「共に考え共に描く50年後の救急医学の未来シナリオ」が討論され、閉会した。

終わりに

日本救急医学会の会員数は、10,359名である。今回の学会はコロナ禍であり、以前のように多くの会場を梯子することはできなくなった。また、世代交代や若手救急医の台頭を痛切に感じた。来年の第51回は、国立国際医療研究センター病院救命救急センター長の木村昭夫先生が会長で、11月28日から30日までの3日間、東京ドームシティで行われる。

令和4年秋の叙勲・褒章受章者（北海道医師会員）

先般、令和4年秋の叙勲・褒章受章者が発表され、当会会員で以下の方々が叙勲の荣誉に浴されました。ここに受章者の方々のご功績をたたえ、謹んでご芳名を掲載させていただきます（敬称略）。
受章者各位には、心からお祝いを申し上げます。

◇旭日小綬章

長瀬 清 元（一社）北海道医師会会長
保健衛生功劳

◇旭日双光章

稲川 昭 元（公社）室蘭市医師会会長
保健衛生功劳

◇瑞宝中綬章

木村 格 元（独）国立病院機構宮城病院長
保健衛生功劳

◇瑞宝中綬章

三浪 明男 現（独）労働者健康安全機構北海道せき損センター院長
北海道大学名誉教授
保健衛生功劳
教育研究功劳

◇瑞宝小綬章

後藤 良一 元 北海道保健福祉部技監
保健衛生功劳